

## 学校法人京都中央看護師養成事業団 令和6年度事業計画について

### ■事業計画

看護学校の運営を取り巻く環境は、年々厳しさを増している。18歳人口の減少や高校生の大学志向の高まり、看護学部を持つ大学の引き続き増加は、学生の確保や専任教員の確保に大きな影響を与えている。今後、さらに人口が減少していくと経営面への圧迫が強まり、閉校を余儀なくされる学校も少なくないと推測される。

こうした状況において(専)京都中央看護保健大学校が総定員を満たし、質の高い学生を育て、京都の地域医療に貢献する人材を輩出するという本法人の目的を達成するためには、さらに厳しくなることが予測される今後を見据えた対策が必要になってくる。

については、令和6年度は次の重点項目を基本に、中期的な視野と短期的な対応の両面で学校運営に取り組むこととする。

- 【重点項目】
- 1 安定した学校運営
  - 2 教育環境の整備
  - 3 入学定員の確保に向けた学生募集対策
  - 4 看護師を目指す学生を大切に教育し、より質の高いスペシャリストを育成する
  - 5 充実した教育のための人材確保

#### 1 安定した学校運営

令和5年度は、令和2年度に実施した授業料の改定が全ての学生に適用されることとなり、また定数を若干超える新入学生があったことから、一定の増収が見られた。

一方で、地政学的リスクの高まり、日本の金融政策と先進諸国との金融政策の違いなどによる円安、人件費の増加等といった要因により物価が上昇し、学校運営に係る経費が増加している。また、新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置付けが第5類に変更されたものの、感染者の増減を繰り返しており、感染対策費や補習授業の実施に係る講師料等についても大幅な削減が見通せない状況にある。加えて、令和5年度に実施した入学試験の結果に見られるように、18歳人口の減少に伴い、今後入学者の安定的な確保がより難しくなることが予測され、学校運営を取り巻く環境は一層厳しくなっている。

このような状況に対応し、引き続き本大学校の社会的使命を果たすため、教育の質の更なる向上を目指すことや本大学校の魅力の効果的な発信はもとより、消費的経費の削減や業務の効率化に努めるとともに、手数料等の見直しについても検討を行う。

#### 2 教育環境の整備

開校40周年事業として、令和4年度は本館3階実習室の改修、実習備品類の更新を、同5年度は本館及び北館の屋上防水・外壁改修、玄関ホールの改修等を行い、学びの場の充実、建物の維持、安全の確保を図ったところである。

しかしながら、開校後41年、前回の大規模改修からも20年以上が経過し、教材や施設、設備の老朽化が進み、改修又は修繕を要するものも多い状況にある。

したがって、学校法人の財務状況を見極めながら、これらの改修、修繕を順次行い、教育環境の整備に努めていく。

### 3 入学定員の確保に向けた学生募集対策

令和5年度に実施した入学試験は出願者が前年度を大きく下回り、両学科とも入学定員に満たない入学者数となった。2年次生以上は学年定員を上回る学生が在籍している学年が多いため総定員としては充足しているが、大変厳しい結果となった。

原因は18歳人口の減少によるところが大きい。令和6年3月に高等学校を卒業した全国の18歳人口は、減少に転じた昭和58年以降最小の人数となり、他の分野を含めて専門学校の学生確保に大きな影響を与えた。令和7年3月と令和8年3月の高等学校卒業者は、令和6年3月よりも全国で3万人程度増加するものの、令和9年3月からは再び減少していくことが明らかになっている。

こうした中で入学定員を充足させるため、学生募集活動や入学試験の実施方法について見直しを図り、今後の18歳人口や受験者の減少などの状況に合わせて効果的に対応できるよう、あらゆる可能性を考えながら対策を進めていくこととする。同時に、令和6年度は、動画やSNSを利用した募集活動の強化やオープンキャンパスの実施回数の増、指定校の拡大や推薦入学試験の受験条件の見直しといった短期的な対策を行うことで、本大学校に関心を持つ者を増やし、来校者を増やして学校の魅力を伝え、受験・入学につなげていくこととする。

### 4 看護職を目指す学生を大切に教育し、より質の高いスペシャリストを育成する

18歳人口の減少に顕著に表れているように、若年層の減少に伴い、看護師、保健師を目指す学生も減少する一方、高齢化の進展に伴い、医療、介護の需要は増えることが想定される。このような状況の下、看護師や保健師という職業を目指して入学した学生を大切に教育し、将来京都の医療、福祉を担う人材を育成していくことが、本大学校の役割である。

優れた看護職者の育成に当たっては、看護に関する専門的な知識、技術に関する教育はもとより、臨床現場に対応できる社会性を養うことが求められる。また、令和4年度にスタートした第5次カリキュラムは、看護の場の広がりに応じた内容となっており、難易度が高くなっていることから、学生がこれに対応できるようにすることも求められる。

このため、Z世代と言われる若者の大学校での学習に対する準備状態(レディネス)を把握したうえで、個々の学生に応じた丁寧な教育、指導を臨床現場とも連携しながら進めていく。加えて、令和6年度はカリキュラム評価を実施するとともに、知識定着に向けて低学年からの取組を強化するなど国家試験対策の充実を図っていく。

### 5 充実した教育のための人材確保

重点項目4に継続的に取り組んでいくためには、大学校としての教育力を高めていく必要があり、専任教員の確保が急務となっている。しかしながら、医療現場での人材不足や看護系大学の増加により、専任教員を確保することは年々難しくなっている。

大学校としては、京都府看護協会のナースセンターを通じた募集、個々の教員が有するネットワークの活用、本大学校の卒業生の勧誘など、引き続き採用活動に注力する。

また、実践力を高める教育を行うため、現在実習施設を中心に臨床看護師の方々に講師として或いは演習指導などにおいてご協力をいただいております。このような取組も継続していく。現在在籍する教員については、教育力を更に高めるため、研修や研究の充実を図っていく。

## ■主な学校行事計画

令和6年	4月	5日	感染症抗体価検査・ユニフォーム採寸／新入生
		8日	第42期生入学式
		9日	始講式／在校生
		10日	新入生オリエンテーション(～12日)
		17日	第1回実習指導者会議
		18日	講師会
5月		10日	看護の日
		13日	薬物に関する講習／両学科1年次生
		14日	健康診断／両学科1・2年次生
		18日	第1回オープンキャンパス
		22日	春期レクリエーション祭・新入生歓迎会
	未定	学校法人京都中央看護師養成事業団 第37回理事会・第37回評議員会	
6月		1日	第2回オープンキャンパス
		10日	前期試験①／両学科1,2年次生(～11日)
		14日	特別講演／両学科1・2年次生
		29日	第3回オープンキャンパス
7月		9日	前期試験／両学科3年次生(～12日)
		20日	学生夏期休業(～8月16日)
		24日	第4回オープンキャンパス
		31日	第2回実習指導者会議・夏期研修会
8月		3日	第5回オープンキャンパス
		17日	第6回オープンキャンパス
		未定	解剖見学／両学科1年次生
9月		21日	前期試験②／両学科1・2・3年次生(～30日)
10月		19日	第7回オープンキャンパス(オンライン)
		23日	関西看護学生看護研究大会
		未定	学校法人京都中央看護師養成事業団 第38回理事会・第38回評議員会
11月		2日	看護研究発表会／看護保健学科4年次生
		4日	指定校推薦入学試験
		12日	看護研究発表会／看護学科4年次生
		15日	学校祭
		16日	公募推薦入学試験前期
		19日	第1回学校運営会議(予定)
		25日	学生冬期休業(～1月7日)
12月		7日	保護者会／両学科
		10日	後期試験／両学科4年次生(～13日)
		21日	公募推薦入学試験後期
		24日	第2回学校運営会議(予定)
		25日	学生冬期休業(～1月7日)
令和7年	1月	9日	後期試験①／両学科1・2年次生(～10日)
		15日	一般入学試験前期
		17日	第3回学校運営会議(予定)
		22日	第3回実習指導者会議

2月	5日	卒業認定会議
	8日	開校記念日
	25日	後期試験②／両学科1・2・3年次生(～3月3日)
	未定	保健師国家試験
	//	看護師国家試験
3月	7日	卒業講演
	//	卒業生を送る会
	10日	第39期卒業式
	12日	健康診断／両学科2・3年次生
	14日	防災訓練
	20日	学生春季休業(～4月7日)
	21日	単位認定会議
	未定	学校法人京都中央看護師養成事業団 第36回理事会・第36回評議員会